

第3回 京丹後市文化芸術振興審議会（会議録）

1. 開催日時 令和4年1月24日（月）午後1時30分～4時30分
2. 開催場所 京丹後市役所大宮庁舎 第2・3会議室
3. 出席者氏名
 - (1) 審議会委員
上田委員、後藤委員、田中委員、谷口委員、土出委員、藤原可委員、増田委員
松本委員、丸山委員、安井委員、山内委員、山田委員
※ ZOOM参加 藤原哲委員、吉岡委員
※ 欠席1名（楡田委員）
 - (2) アドバイザー
田中氏、藤野氏、近藤氏、河合氏
 - (3) 事務局
教育次長 引野雅文
文化財保護課 課長 新谷勝行、
生涯学習課 課長 川村義輝、課長補佐 坪倉武広、主任 寺田絢子
主任 吉岡弘樹 主事 平井優菜
4. 内容
別紙（会議次第）のとおり
5. 公開又は非公開の別 公開
6. 傍聴人 1名

1. 開会

事務局：

皆さんこんにちは。大変お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。定刻になりましたので、ただいまから、令和3年度第3回京丹後市文化芸術振興審議会を開会させていただきます。私は進行役をさせていただきます京丹後市教育委員会の引野と申します。本日は、藤原哲也委員と吉岡委員はZoomでご参加をいただいております。また、楡田委員につきましては欠席のご連絡をいただいております。それでは、開会にあたりまして会長よりごあいさつをいただきます。

会長：

皆さんこんにちは。松の内は過ぎましたけれども、今年もよろしく願いいたします。寅年ということで、新しい芽が出るというお話をされることもあります。オミクロン株が大変なことになっていますけれども、窮地を皆さんと一緒に乗り越えて、明るい展望が見えてくればと思っています。今日は若い方達にお越しいただきました。12月のスタディーツアーでは大変お世話になりまして、寒い中ありがとうございました。今日は皆さんのお話も楽しみに参加させていただきました。審議会の会長としていろんな会議に出させていただいていまして、また後でそのお話もさせていただきたいと思っています。私は気付かせていただくことや学ばせていただくことがいっぱいあります。楽しい雰囲気の中で会議を進めさせていただけたらありがたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

事務局：

ありがとうございました。なお、この会議につきましては公開で開催をさせていただいております。本日は傍聴の方がお一人おられます。会議録を作成するために録音をさせていただいておりますので、ご発言の際にはマイクを使って発言をお願いしたいと思います。

それでは、会議録の確認者の指名に入りたいと思います。本日の会議録を確認しご署名いただく後藤委員さんにつきましては、委員名簿の3番目の委員にお世話になりたいと思います。よろしく願い

たします。次に、資料の確認をさせていただきます。資料1「第2回の審議会でもいただいた意見」。資料2「スタディーツアー」のチラシ等の資料。資料3「市内の貸館等施設の一覧表」。資料4「計画の全体構成目次案」。資料5「基本的な考え方のなどの案」でございます。ご報告をいただきます芸術文化観光専門職大学からの「文化施設の活用について」という資料もご提供いただいております。以上ですが、配布漏れなどございませんか。よろしいでしょうか。それでは、議事に入ります前に、11月24日の第2回審議会の振り返りをさせていただきます。

事務局：

資料1をご覧ください。前回の審議会では、2つのグループに分かれて意見交換を行っていただきました。1つめに、京丹後市の文化芸術振興の目指す将来像についてイメージを共有していただきました。2つめに、委員の皆様がご存じのイベント、講座などの取組、活動されている人や団体などの情報をご紹介いただきました。3つめに、出し合っていたいただいた将来像や「こうなったら」というイメージにちかづくために、現在の京丹後市に足りないものや取り組むべき課題の洗い出しをお世話になりました。最初に発表していただいたB班からは、目指すべき姿のイメージとして、文化芸術をとおして人が集まる環境を「温泉」にたとえて発表いただきました。また、子どもの頃に大人から教わった経験を次の世代に伝え継承していく「継続性」についてのご意見もありました。さらに、閉校施設などに眠っている楽器を活用し、発表やコミュニケーションの場をつくるというアイデアもいただきました。また、活動していくうえでは地域の人の理解が欠かせないので、理解をいただき、支えあう機運づくりが必要とのご意見でございました。次に発表いただいたA班では、目指すべき姿として、いろんな人がいろんな活動ができるようにという「多様性」についてのご意見や、文化芸術が安く見られているのではとの懸念や財政面についてのご意見、また、文化の主体である市民が気楽に文化を楽しみ、心の隙間が埋まる癒しがあるまちを目指すというご意見もいただきました。これまでの取組事例としまして、文化のまちづくり実行委員会、峰山音楽協会、国際交流協会の事例をご紹介いただきました。いまの京丹後市に足りないものとして、芸術系の大学や学生との継続的なつながり、ライブハウスなどの施設、丹後弁を大切にする仕掛け、情報や魅力の発信、評価の仕組みを挙げていただきました。それを受けまして、河合アドバイザーから、どのようにすれば市民が満足して文化活動を行えるかという対内的な視点と、文化を通して市外からの人の流れをつくり移住にもつなげるような対外的な視点の両方が必要とのご意見をいただきました。近藤アドバイザーからは、文化芸術の活動を持続可能にし、地域の活性化につなげるためには「お金」と「発信」が欠かせないとのご意見をいただきました。田中アドバイザーからは、世代を超えたコミュニケーションが丹後ではまだ残っており、その中で付き合いのしかたを学ぶことができているのではないかと。ほかの地域と差別化が図れ、文化を通して地域の活性化に結びついていくのでは。とのご意見をいただきました。藤野アドバイザーからは、アートプロジェクトの例や拠点施設の例をお示しいただきました。また、自己実現を自己満足で終わらせずに地域社会へ広める「地産地育」の考え方や、伝統的な文化資源が古臭いイメージにとらわれないためには現代アートのような触媒が必要になるとのご意見をいただきました。本日も忌憚のないご意見を頂戴したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

事務局：

ただいまの報告で質問等ございませんか。よろしいですか。ないようでしたら議事に移りたいと思います。これより会長にお願いしたいと思います。

会長：

これより議事に入らせていただきます。それでは、京丹後市公共施設見学のスタディーツアーの報告について事務局より説明をお願いいたします。

事務局：

12月11日（土）に、芸術文化観光専門職大学の学生4名に参加いただき施設見学ツアーを実施いたしました。資料2、資料3をご覧ください。藤野アドバイザー、近藤アドバイザー、河合アドバイザー、田中会長、松本副会長、丸山委員にもお世話になりました。京丹後市にあります公共施設の現場を見ていただきまして、その学びの中で新鮮なご感想やご提案を、計画の策定にいかすことを目的に実施いたしました。京丹後市は大学もないため市外の若者の転入も少なく、大学進学や就職のために市外へ出る

若者が多いため、若い方のご意見や、豊岡など他市の状況と比較した感想をお聞かせいただける貴重な機会となりました。市内には資料3のようにたくさん施設がございますが、時間も限られておりますので、ツアーの場所は資料2にある8か所を事務局で選ばせていただきました。本日は、専門職大学より学生4名に報告と提案をしていただけることになっております。なお、審議会条例第6条第4項「委員以外の者を会議に出席させて意見を聴き、又は資料の提出を求めることができる」の規定に基づき、出席していただいております。それでは、芸術文化観光専門職大学の学生の皆様よりプレゼンテーションをいただきます。どうぞよろしくお願いたします。見やすい場所で見ていただければと思います。

学生：

私たちは、12月11日、京丹後市スタディーツアーに参加させていただき、京丹後市における文化施設の活用について報告をしたいと思います。このような場は初めてでとても緊張しています。学生がこう思っているだと受け止めていただければ幸いです。それでは、最初に私から報告させていただきます。タイトルを「誇りをいかした施設の活用」としました。スタディーツアーで感じたことで「誇り」というワードがあります。多様な文化施設が点在していることと、文化施設ごとに大きな特色があるなということ、それと、職員や市民の施設への愛がすごく大きいことの3つを感じました。そこから私が考えたのは、それぞれの施設が誇りであるとともに、それを守る人々もまた誇りなのではないかなと考えました。私は、その誇りをいかした取組をすることで、京丹後市の芸術文化が発展するのではないかと考え、その取組として、ツアーで見た施設の中から3つの施設をピックアップして考えてみました。まず、文化会館です。私が誇りだと考えたのが、小中高生のクラブ活動や幼稚園、保育園の発表の練習が無料で行えるということです。これにはすごく驚きまして、クラブ活動の場所探しであったり学校が使えない時の場所探しというのは、すごくお金もかかるし、そのお金をどうやって出すかという問題で困った経験がありまして、子どもの練習拠点であったり発表の場所として、文化会館がもっと使われたら良いなと考えました。子どもたちの発表の場は、学校現場や教育現場よりも、習い事の発表の方が多いので、教育関係とも連携し、子どもの文化活動の発展の拠点として文化会館を使ったら誇りを活かせるんじゃないかなと考えました。次に、旧大宮第三小学校です。廃校になった小学校を文化活動の場として使っています。写真のように丹後吹奏楽団の練習拠点があります。文化活動の場として使うにはやはりお金、維持費もかかりすごく大変だということをお聞きしました。学校という誰もが馴染みがある場所が、拠点に使われていることが素敵だなと考え、それが誇りだと考えました。廃校施設は企業誘致で使われることもすごくいいと思うんですけども、地域交流の場所として、地域の人々や地域が元気になるよう地域交流をすることで地域が活性化し、地域のための場所として廃校校舎を使うことでさらにその誇りがいかせるんじゃないかなと考えました。最後に、琴引浜鳴き砂文化館です。誇りだと思ったところは、もちろん鳴き砂自体が珍しく誇りであるものだとも思うんですけども、鳴き砂のその文化というものにすごく私は誇りを感じました。歴史であったりだとか、特に網野町であった1997年のナホトカ号の重油流出事故のことを聞き、すごく感銘を受けました。琴引浜鳴き砂文化館自体も文化に関しての展示も多く、「博物館」ではなく「文化館」であるということにすごく魅力を感じました。そこが誇りだと考えました。ですので、さらに鳴き砂の文化を知ってもらうための活動をすることで誇りが活きると考えました。私の意見としては誇りを大事にするべきだということです。それぞれの施設の誇りをまず何かということを考え再確認し、誇りを守り続けるためだけでなくいかすことも大事なんじゃないかというふうな考え、京丹後市の他の施設の誇りも知っておくべきではないかと考えました。他の施設の誇りを知ることさらに相乗効果として誇りがさらに深まると言うか、さらに広めていけると考えました。まとめると4つポイントがあります。1つめが、京丹後市の文化施設には誇りがあるということ。2つめが、誇りを守る人々もまた誇りであるということ。3つめが、誇りを守るだけでなくいかす取組が必要であること。4つめが、それぞれの施設の誇りを知ることがその第一歩であるということです。ありがとうございました。次の発表者に移ります。

学生：

それでは、「既存施設の利用について」お話しさせていただきたいと思います。今回の京丹後スタディーツアーで、「文化施設への愛」と、「文化施設利用を増やしたい熱意」と「既存の施設を利活用している」というところが、「めちゃくちゃすごい？」と個人的に感じております。今回初めて京丹後市にお邪魔して感じたことなので、すでに審議会の中でも論じられている部分はあるかと思うので新し

い発見になるかは分からないんですけど、ただ、初めて行って、初めて説明を受けてもこれらが伝わってくるっていうのは、なかなかないことだと思います。私の意見ですが、北近畿という広域で見た時に、魅力ある施設であったり「ここを利用したい」って思われるような施設づくり、アプローチが必要だと思います。人口減少とか、芸術文化関係者の創出とか呼び込みの課題は、今どうこうできる問題でもないし、それが仮に増えましたとなったところで、メリットがどれぐらいあるのかというのは、正直怪しいところではあります。外に視点を広げた時にこういう場所があったらいいのっていう団体とか人は、すでにいらっしやると思います。なので、そういう層を取り入れる仕組みを何か作っていくことが今まず自分たちができることかなと思いました。交通面では京阪神から2時間強かかってしまうので、広域で見た時に「ここでできる何かがある」ということを作る作業が対策として一番なのかなと思います。発表は以上になります。次の方に引き継がさせていただきます。

学生：

私は、「文化施設のネットワーク」を提案をさせていただきたいと思います。見学した8施設のうちに貸館利用をピックアップして4施設を比較していきたいと思います。最初に、アグリセンター大宮です。客席がロールバック形式で自動で客席が出てきて、エヴァンゲリオンみたいだって非常に興奮しました。農業学習施設として建てられたという背景があるとうかがい、ちょっと特殊だなと思いました。ホールとか図書室とか調理室が入っていて非常に多様な活動ができる施設と感じました。続いて、旧大宮第三小学校です。廃校舎を利用されており、現在、丹後吹奏楽団が練習場として利用されているのと、民間の企業が入っているということです。民間企業が使われるのであれば、市はそちらを優先したいということでしたので、文化団体への貸し出しをめっちゃめっちゃ推奨しているわけではなさそうな印象を受けました。なので、丹後吹奏楽団が教育委員会に直接かけあって例外的に年間契約して借りていらっしやるんだと思います。他の文化団体がこの空き教室を借りたいと思っても、ちょっと難しそうだなという印象を受けました。続いて、丹後文化会館です。客席数が858席の非常に立派なホールですが、文化会館さんからいただいた資料を見ますと、平成30年度から令和2年度にかけて、非常に貸館の利用がめっちゃめっちゃ減ってしまっていて、とても数字を見て悲しくなっていました。ホール自体もすごく立派で、練習用の施設も能舞台が練習できるような特殊な床になっていたりですとか、楽屋も畳の楽屋で今どき珍しいし凄いいところだなと思いました。催事の数を見ますと、丹後文化会館の主催事業が激減しているわけではなくて、貸館の利用がここ数年で大変減ってしまっているという状態です。技術系のスタッフも含めて運営の職員全員で5人とうかがったので、ホールが稼働し過ぎて多分手が回らない状態なんだろうなと思い、その押し引きが難しいなと思いました。一方で、隣にある公民館は非常に貸館の利用が多いとうかがいました。我々が見学に行った時も習い事をされている方がたくさんいらっしやいました。最上階が図書館なこともあって、子どもから高齢者まで、また、お母さん世代も含めて様々な利用があるとうかがいました。公民館を利用している文化団体さんが多いということは、文化を日常的にたしなむことが多いんだろうと感じました。それと、施設も多いので、機能別にすみ分けすることが必要なのではと思いました。ご覧いただいているこの地図は、行かせていただいた8施設の場所を示しています。ご覧のとおり点在していて、このホール以外にも陶芸とか染色ができる工房や、鳴き砂文化館など、小さい施設が点在しているのを1日で一気に見させていただきました。「なんて豊かなことだろう」と思ったのですが、市外から来て一気に1日で見せていただいたので感じたことだろうと思います。もし私が京丹後市に住んでいたら、多分そうは感じられなかったと思います。市町村合併する前に建てられているので、どういう背景があって何を目的に建てられたかが、旧町ごとに違っていると思います。場所も管理者も違いますが、京丹後市という大きな括りになったことをポジティブに捉えると、ひとつの市にいろんなものがあることの豊かさを感じました。ネットワークを築いてお互いの状況をなんとなくゆるやかに把握していれば、「うちの施設はこれができる」「どここの施設はこれができる」というようなすみ分けができるのではないかなと思いました。例えば、丹後吹奏楽団は「広い部屋で大きな音を出して練習する場所がないから旧大宮第三小学校を借りたい」という背景がある。また違った利用者では、狭くても無料で使いたい利用者さんもいるかもしれない。施設が建てられた背景もそれぞれにあり、文化団体や個人もそれぞれ背景があり、「どの施設を使えるか」ということを日々悩まれていると思います。そういう悩みを、ふらっと気軽に相談できる場所を一元化するということが、お互いにとって良いと思いました。利用者から施設への相談も、施設同士の相談も、もうちょっと気軽にすることができたらいいと思います。すでにこういったネットワークがあるのかもしれないんですけど、あるとすればもっと活用できるんじゃないかなというふうに思います。私達が見せていただいた施設の他にも、

たくさん施設があると思いますが、それぞれが得意なことやそれぞれができること、そして、今何が現状として課題なのかということをお互いなんとなく分かっていると良いと思います。例えば、利用者から「この施設でこういうことをやらせていただきたいんですけど」と相談があった場合に、「うちの施設では無理です」で終わるのではなく、「そういう希望だったらあそこの施設がおすすめです」というところまでできると、お互いにとって良いんじゃないかなという思い、提案させていただきました。以上です。ありがとうございました。

学生：

「まとめ」としているんですが、僕の個人の意見も交えつつまとめの方向に持っていったらなと思っています。「6つのまちから1つのまちに」というタイトルでお話しさせていただきます。スタディーツアーの全体を踏まえての感想になります。多分野にわたり施設がたくさんあって、陶芸であったり鳴き砂であったりさまざまな文化に触れられる施設があるなと思いました。施設が多くあるというのは、やはりもともと6つのまちだったということが非常に大きく関係していると思います。6つのまちだからこそ歴史と魅力が大事にされたなと思いました。また、施設に対する従業員さんの愛が非常にあるなと思いました。どの施設もすごく熱心に話をしてくれて、すごく自分自身の勉強にもなりました。それと同時に、お話を聞いているうちに、この施設をどう運営していくのか、この先どうやっていけばいいのかという不安をお話聞きながらちょっと感じました。僕が主にお話ししたいのが、旧大宮第三小学校についてです。2012年度末に閉校していて、グラウンドは民間のチップ工場になっています。校舎内のランチルームと図工室が丹後吹奏楽団の練習室と事務室として利用されています。丹後吹奏楽団は単年度の契約で、有償で施設を借りているんですが、やはり、ここで難しいのは利用料、使用料の取り扱いの難しさだと感じました。市が閉校校舎を管理していますが、やはり計画的に解体することがメインとなっていて、市も予算がなかなか出しづらい状況です。しかし、借りたい側の丹後吹奏楽団は「大きな音を鳴らせる場所がないのでこの施設が使いたい」という話を聞き、「難しいな。どうしたらいいのかな。この旧第三小学校についてちょっと考えてみたいな」と思いました。僕は、やはり学校としての魅力と価値があると思います。学校というのは誰もが通過点として通る懐かしい場所でありそれぞれの時代や時間を感じたり空間を感じられる場所だと思います。多くの人の中で何か共通した感覚が生まれる場所だと思います。そんな記憶の残る場所を文化施設として再利用することは、文化芸術と教育の連携から広く活動できるのだと思いました。今、自分たちが学んでいる劇場とか芸術祭は、ただ文化芸術を振興するためとか、行政と文化芸術という視点だけじゃなくて、教育機関だったり地域やNPOへのアプローチ、アウトリーチが今非常に重要視されています。教育と文化芸術の連携から何かできないかなと思いました。例えば、丹後吹奏楽団には大きなホールで演奏するだけでなく学校の体育館や校舎内でも発表してもらうことで、幅広い年齢層の人が音楽に触れる入口の役割を担ってもらうと、クラブとかではできないことが子どもたちにも体験できるなと思いました。そうすることで社会的意義が見いだされて、学校側もアーティスト側も広く認知されていくのではないかなと思いました。校舎解体ではない別の形でのリターンが大事だと思います。しかし、閉校校舎を受ける団体がいないとどうしても解体の対象にされていく。これまでに17校が閉校になっていてその解体費を考えると莫大になると思います。解体ではない別のリターンができるといいですが、管理先をどこに持っていくといいのか。今は市の管理なんですけど、予算等なかなか難しい立ち位置になってしまいます。僕は、「アートマネージャー」がその立ち位置を担うと良いなと思いました。市とアーティストの両方がフェアな立場で話せるために、仲介役の「マネージャー」が活動を支えられるなと思いました。懸念されるのが、遠くて利用者が行けないとか、何か発表があっても行くことが難しいということがあれば、もしかしたら経営にリスクを招いてしまう可能性もあるので、そこはこの会議を通して考えていけたらいいのかなと思いました。実際は公民館とかを借りたほうが利用料も安く、活動は継続してできるんですが、道具の管理のこともあるし、学生の足がないというようなところで活動の中心が閉校校舎になってしまっていると僕は感じました。練習場の提供や文化的活動の支援を行うはずの文化会館があまり機能しきれていないのではないかなと思いました。なので、文化会館がどう機能し運営し活動していくかを少し深めていくといいと思います。今後の展開として、この審議会はすごく魅力があって価値のあるものだなと思ったんですけども、この文化施設の方々との関わりをもって話し合っていく必要があるなと思いました。各施設が今多分不安も抱えていると思うんですけど、どういう目標や目的を持ってこの施設を利用して行くのか、そして、主としてどう目標を作って利用していくのかが必要かなと思いました。やはり、それを考えていくためには基本計画が必要であり、マネージャー、専門家の必要性がすごくあるなと思いました。審議会で基本計画を作っていく過

程でお互いに対話しお互い知らなかったことを知っていくというのがすごく大事で、それを基本計画という形に起こすことが非常に重要だと思いました。京丹後市が持っている文化施設のそれぞれにある魅力を、まずはお互いが理解し連携したりアウトリーチしていくことが京丹後市の文化が深まって広がっていく未来に進んでいくことなのではないかなと思いました。以上で学生のスライドを終わらせていただきます。ありがとうございました。

会長：

ありがとうございました。すばらしい感性で、私たちが気づかなかったことを教えていただきました。すばらしい発表ありがとうございました。質問がありましたらどうぞ手を挙げていただきましたら。

副会長：

すばらしいプレゼンテーションで感銘を受けました。せっかくの機会なので聞かせてください。アートマネージャーに触れていただきました。所属場所は具体的に例えば市役所であればいいのか、文化会館であればいいのか、独立した何か NPO みたいな形がいいのかとか、アイデアや意見があったら聞かせてください。

学生：

僕個人の意見としてはやはり独立していた方が良いのではと思います。というのもやはり、旧大宮第三小学校で言うと、今、公募ができていない状況ってということなので、もし小さな団体で何か活動したっていう気持ちが高まった時にアーティスト側からの窓口が必要となります。受け入れてくださる施設も必要で、その仲介としては独立した方が私は良いのではないかなと思っています

会長：

それでは、2時20分まで休憩をいただきます。

休憩

会長：

計画の骨子案についての意見交換に入りたいと思います。事務局から説明をお願いします。

事務局：

今回は、基本理念、基本方針につきまして、ご意見をお聞かせいただきたいと思っております。初めて計画を策定することになりますので、京丹後市はこれから何を売りにするのか、京丹後市の魅力やコンセプトをどのように打ち出していくかについてもお考えをお聞かせいただきたいと思っております。本日の意見交換の進め方ですが、事務局から説明をさせていただいたあと、前回のように2つの班に分かれていただいて意見交換をしていただきます。そこで出た意見を発表していただくという流れを考えておりますので、よろしくをお願いします。それでは、資料4目次案をご覧ください。今後ご意見をいただき修正を加える予定のものですが、このような章立てのイメージでたたき台を作成しました。第1章では計画の概要、第2章では現状と課題、第3章では基本的な考え方、第4章では基本戦略、第5章では推進のために、として考えております。今日は第3章「基本的な考え方」を中心にご意見をうかがいたいと思っております。第3章(1)の基本理念ですが、「文化芸術の地産地育による未来への活力の創造」を、今までの協議内容をもとに、藤野先生のご助言などもいただきながら事務局で考えた案を入れさせていただきました。地産地育によって文化芸術の薫り高いまちをつくり、活力のあるまちをめざす、というイメージで、「基本理念」として提案させていただくものです。あくまでも案ですので、皆様の意見を基に修正したいと思っております。続きまして、「基本方針」では、いままでの協議内容を基に事務局案として1番「文化芸術をとおしてにぎわいと癒しを創出する」、2番「誰もが気軽に文化芸術に親しみ活動することができる」、3番「あらゆる場所で文化芸術活動を行うことができる」、4番「情報を積極的に発信し、誰もが情報を得ることができる」、5番「文化芸術をとおして豊かなところを育む」、6番「文化財や地域の文化的資源をいかす」の6つの方針案を立てました。そして、一番右の欄には京丹後市文化芸術振興条例の基本施策のどれに分類できるかを書いています。京丹後市の強みや自慢できることを書いていただく欄と、反対に、京丹後市の弱み、不足していること、課題と思われることを書いていただく欄を設

けました。戦略・施策の欄には、どういう取組ができるか、とか、こういう仕組みが必要だというようなことも可能なら出していただけたらと思います。基本的にはこの基本理念と方針の方です。骨子、骨組みになりますが、そちらの方を固めていきたいというふうに考えております。日ごろお感じになっていることももちろんですけども、所属の団体のお立場からのご意見も大いに参考にさせていただきたいと思っております。基本方針1つ1つの選定理由を説明をさせていただいております。

方針1「文化芸術をとおしてにぎわいと癒しを創出する」は、アンケート結果でも、文化芸術と産業や観光が連携するまちを望む声が多くありました。方針2「誰もが気軽に文化芸術に親しみ活動することができる」は、「誰もが」というのはこれまでからもご意見をいただいておりますし、総合計画にもSDGsの部分で「誰一人取り残さない」という理念が盛り込まれています。方針3「あらゆる場所で文化芸術活動を行うことができる」は、活動場所に関しては、アンケート結果では、地元の施設や市や府の公共施設を利用している人が非常に多かったのですが、活動の場所が整っていると答えた方は少なく、Wi-Fiの整備やバリアフリー化を望む意見が多くありました。方針4「情報を積極的に発信し、誰もが情報を得ることができる」の理由は、アンケート結果で、4割近くが「情報が身近に得られない」と答えています。紙媒体のほかSNSなど新しいツールでの発信。市民にも、市外に向けても発信していくこと・分野を超えて情報共有することなども必要とご意見がありましたのでこのようにしております。方針5「文化芸術をとおして豊かなところを育む」の理由は、アンケートの結果では、京丹後市は文化的な公演やイベントが多くあると答えた人は、どちらかといえばそう思う、そう思うの両方で12%でした。学校などの教育活動や、祭りなどの地域活動の中で、質の高い文化芸術に触れる機会や、記憶に残るような体験を子どもたちにさせてあげたいというような意見もこれまでにいただいております。方針6「文化財や地域の文化的資源をいかす」の理由は、教育振興計画に重点目標として「歴史・文化芸術をいかし豊かな感性と郷土への愛着と誇りを育む」とあります。京丹後の良いところを再認識しその価値やイメージを高めていく必要があります。以上の6つを基本方針にあげましたけれども、あくまでも案ですので、内容はもちろん、いくつに分けるかについても、今の6つ以外にもあれば意見をいただきたいと思います。ここまでで質問はありますでしょうか。

アドバイザー：

基本理念も皆さんで議論しながら作り上げていくべきことなんですけど、今のは仮に置いてありますから容赦なくご批判いただいて結構です。なぜここで「地産地育」という言葉を出したかということ、ご存知のように「地産地消」って言葉はだいぶ前から使われたと思います。しかし「地消」の概念が文化にはふさわしくはないんじゃないかと思うようなところがあったので、「地育」のほうがいいんじゃないかと前回出させていただきました。ただ、よく考えてみると、子どもの場合だったら「子どもを産み、そして育てる」のですから「地産地育」でいいんですけども、文化の場合もそれでもいいのかなってちょっともう一度考え直しました。それで、1つは「バリューチェーン」というのを考えました。まず、出発点として「地育」を置くとすると、ここから何かが生み出されて「地産」につながる。すると、そこから今度は「地消」が生まれ、これが還元されていくというバリューチェーンを考えました。例えば、豊岡の場合ですと「地育」として、今、専門職大学ができて全国から学生が集まっています。そして、KIAC(城崎国際アートセンター)ですね。かなり尖ったアーティスト・イン・レジデンスの施設がある。こういった概念のもとで育ってきたものがアウトプットとして演劇作品になったりします。そして、演劇祭が行われるとなれば、今度は観光と結びつくわけですね。あるいは、地場産業と結びついてイノベーションが起きたりします。といった流れで、「地産」が生じるわけですね。それで、次に、消費するということになった時に、地域の中での消費はもとより、いわゆる交流人口が増えますので、外から来た人が物を買ってくれる、または、観光でお金を落とすとしていってくれる。そして、また「地育」に還元することができる、といった流れです。最初の出発点は「地育」にあるのかな。先行で投資しなくちゃいけないことなんです。先行投資したものがアウトプットとして何か生み出して、観光や地場産業のイノベーションが起こる。そして、それを消費してその地域の経済が回っていくという流れ。そうして稼いだものがまた地域に戻っていくと。こういう形で自立した「文化社会経済圏」というのが、例えば、この地域で成立するというのが理想的な形ではないかなというふうに考えています。それで、先ほどの基本理念の話に戻りますが、やはり文化芸術の「地産地育」よりも『地育地産』による未来への活力創造の方がいいのかなと思いました。それともう1点、6つの方針のところですが、1番に「にぎわい」という言葉がありますね。ですから、文化と観光とかが書かれています。しかし6番目の「文化財や地域の文化資源をいかす」というのも、これは一般的に、文化財は保存すべきことだっていうのは当然なんです。

すが、それをどう活用するかというのが今、問われていることです。単なる消費と結び付けられる、または、すり減らしするような形の活用ではなくて、持続可能な活用はどうあるべきかということを見ると、確かに教育にいかすということが一方ではあるけれども、やはり、これも観光や経済にいかすという形もあるのかなと思います。そうすると、1番目と6番目というのは、実は結構重複しているところもあるんじゃないかなと思いました。以上、コメントと補足です。

事務局：

補足をいただきましてありがとうございました。基本理念については「地産地育」ではなく、「文化芸術の『地育地産』による未来への活力の創造」としてはどうかとご提案いただきました。また、方針1と方針6の部分もご意見をいただきました。この案はあくまでもたたき台ですので、そういった点も踏まえまして、これから2班に分かれてグループワークをお願いしたいと思います。方針1・2・3を検討いただくA班と、方針4・5・6を検討いただくB班に分かれていただきます。基本方針は6つにしていますが、これについてもご意見をいただきたいと思います。強み、弱み 今後の戦略や施策などについてもご意見がありましたら出していただきたいと思っております。所属団体のお立場からのご意見も大いに参考にさせていただきたいというふうに思っておりますのでよろしく願いいたします。進行役の方はよろしく願いいたします。3時10分になりましたら発表していただきますのでよろしく願いいたします。

グループワーク

事務局：

時間になりましたので発表いただきたいと思います。A班からお願いします。

委員（A班）：

我々は、「抽象的な表現で書かれている方針は具体的に言ったら何なのか」と意見を出し合いました。1番の「文化芸術を通してにぎわいと癒しを創出する」というのは具体的にいうと、市民が企画に関わったり何度も行きたいと思うような祭りみたいなものとか、交流プログラムとか、花火がやたら上がるようなイベントだったり、言い換えれば、銭湯の富士山の絵のようなものなんじゃないかと。2番の「気軽に芸術文化に親しみ活動することができる」を具体的に言えば、目の見えない人や聞こえない人にサポートがあるとか、車椅子でも入れるというようなユニバーサルデザインがしっかりできていて、なおかつ、それが参加したいと思えるようなものとか選べる選択肢がたくさんあるようなものであると。3番「あらゆる場所で文化芸術を行うことができる」は丹後の自然をいかして砂浜とか海とか、オンラインでいろんな場所で同時にパブリックビューイングみたいなのを含めて同時に開催しているもの。このように噛み砕いて共有しました。その結果、今何が足りないのか、何をすべきかは発表を代わります。

学生（A班）：

今何が足りなくて、今後どういう戦略にしたらいのか、というところは合体させて考えました。考えてみますと、1番だけの問題、2番だけの問題、3番だけの問題、と分けられるものがあまりなく、関連している事柄がいろいろあるんです。例えば、1番の「芸術文化をとおしてにぎわいと癒しを創出する」に関しても、先ほど具体案がいくつか挙げられるということは、不足してるというよりはむしろたくさんある。ただ、中途半端だったりこれだといえる推しがないと思います。基本理念は難しいと感じました。これをバンと出した時に、どれだけ理解してもらえて、「みんなでがんばっていこう」となるか。全体的に難しい印象がそもそもあります。どうやって解決するか考えた時、多世代で交流したり、学校教育と社会教育の境をなくすとかの意見が出ました。例えば、学校で先生に教わるのがそこだけで完結するんじゃないで、その子がおじいちゃんやおばあちゃんに教えることもあるだろうし、おじいちゃん、おばあちゃんが子どもたちに教えるような場面もあるだろうし。1番でも2番でも3番でもそういったことがあったらいいなと思います。2番で「気軽に」という言葉が入っていることについては、手続きが煩雑だとできないと思うことがあり「手続きの簡略化」と書いています。キャッチコピーがないと思います。今の案では結構文字数が多いじゃないですか。1番から3番までで何を指すかを、小さい子でもわかるように出すべき。豊岡市を例に挙げると、「演劇のまちづくり」とバンって打ち出したことで、今、まちはこうやって動かしてるんだっていうのが誰もが説明できるんですね。このスローガンがあ

るからやってるんだっていうのが一発で分かるところがある。そういうところから、参加したいって思えたりとか、バリアフリーの意識が生まれてくんじゃないかなっていうところに行き着きました。1番2番3番それぞれに戦略があるというよりは、その全部を通して今やらなきゃいけない事っていうのがあるんじゃないかなと思いました。前半部分は以上とさせていただきます。

委員（A班）：

少しだけ補足します。「キーワードが難しい」と発表しましたが、単にお年寄りにとって難しいということではないんです。いま、社会の動かし方が変わってて、例えば、「コモンズ」という言葉がけっこの最近出てくるんですけど、説明しづらいと思うんです。でも今後、5年後10年後には、「コモンズ」っていう考え方で世の中が変わっていくくらい今ちょうど転換点だと思います。子どもからお年寄りまで、みんなが、「社会がこう変わってるから新しいやり方はこうです」と、わかるようにしなくてはいけない。「キャッチコピーがない」とは書いたんですが、こういうのに関しても、子どもでもお年寄りでもわかるような、みんなで共有できるキーワードというのを作るのが大事なかなと思います。A班は以上です。

会長：

B班お願いします。

委員（B班）：

B班は、現状や課題を主に出してもらっています。意見をいくつかピックアップして発表します。まずは、情報の関係からお話しますが、情報はいっぱい出てるっていう意見がありました。いっぱい出ているんだけど届いていないとか、出し方がバラバラだということです。例えばケーブルテレビがあります。回覧板もあります。ちらしも全戸に入っています。情報は出てるのに、なぜ届いてないか。届くためにはどういうことが必要かというアイデアも出ましたけども、例えば、ケーブルテレビの文化専門のチャンネル。そのチャンネルなら何時でも文化関係の話をやっているというようなチャンネルあってんじゃないかなと。次に、5番の「文化芸術を通して豊かな心を育む」ですが、主に子どもたちにどういう文化芸術をとということに意見がたくさん出ました。文化会館をもっと会場に使えないかという提案もありましたが、逆に、子どもたちのもとに出向いていくのはどうだろうとも提案がありました。6番目の「文化財や地域の資源をいかす」という点では、自然とか景観を観光に結びつけるというのは実はこの1番の「にぎわい」に深く関わってくるとも思いました。カラーが異なる6つのまちが合併して1つのまちになっているけど、隣のまちのことも知らないことが今でもあるんじゃないか、そのあたりのことも見直す必要があるんじゃないかという話もありました。6つの方針に追加してもうひとつ、丹後文化会館のあり方です。今後10年を視野に入れた長期計画なので、京都府のお考えがあるかもわかりませんが、老朽化しているあの施設を今後どういかにするかとか、どこかに施設の今後についての章立てがあってもいいんじゃないかと。在り方も含めてどこかで話す場面がこの計画の中にあってはどうかという話をいたしました。次に基本理念です。未来への先行投資ということを感じ、次世代への投資という意味も含めてこの「地育」というのは大変いい言葉だという話をしました。以上です。

会長：

質問がありましたらお願いします。

委員（A班）：

3つのテーマのうち、どこが一番盛り上がりましたか。

委員（B班）：

情報の話から始めましたのでその部分はたくさん出ましたが、全体として話しましたので、特にどこという事もないです。6番の文化財と地域の資源の部分はどちらかというとなかったかもしれません。

会長：

その他よろしいですか。思いはいろいろとあるんですが、整理していくの難しいですね。

委員：

自分の班さえまとまっていないのが実態です。今出た意見がある程度まとめてもらって次回の会議までに出してほしいです。

事務局：

貴重なご意見いただいております。見やすく整理してお送りさせていただきます。

会長：

アドバイザーの先生方からお願いできますでしょうか。

アドバイザー：

お話を聞かせていただいて思いましたのは、まず、今回示された理念にあるように、審議会や計画において、文化の力や文化の価値で京丹後市においてどういう人を育てていきたいのか、将来に向かっての人の育て方、文化の力でもっての人っていうのはどういったものかというのが全体に流れているのかなというふうには思いました。それが、今の子どもたちと今ここにいらっしゃるような大人の関係、いわゆるコミュニティの力をどのように育てていくのかっていうのが大事なのかなというふうに思います。これまで京丹後市に流れてる文化の力が根底にあるっていうのが基本ではないのかなというふうに思います。それと、今回基本方針が6つ先に示されたことで京丹後市の今ここで言う自慢できることと不足していることが、逆にちょっと考えにくかったのかなと。むしろこれって自慢できることでどこに当てはまるではなくて、京丹後市そのものの魅力って何だっていうところとそれに対して足りないものは何かって言って考えたほうが、むしろ出しやすかったんじゃないかなっていうふうには少し思ったところです。それと、京都府の話にはなりますけども、施設に関して、今回10年間の計画ということで、確かに文化会館も非常に古くともう改修しないとなかなか機能しない部分も出てきています。だから逆に、今回の計画の中で「自分たちはこんなことをこれからやっていきたい」とか、「こういうことを目標に活動していくのが京丹後市にとって良い。そのためにどういった機能がいるんだ」というような視点が必要ではないか。前回のお話の中では「100名程度のライブハウスみたいなところがない」という話もありました。今日の学生さんの話でも「子どもたちの練習のための施設にはいい」という話もありました。そういった「どういう機能が必要なんだ」あるいは「どういう環境が必要なんだ」という視点で考えていただきたい。現状ある施設で足りてるのか足りてないのか、足りていてもどういう改修をしていかなあかんとか、あるいは建て替えだとかいうことでこれからお話を具体化していくという方向で検討していただくと、私どもとしても受け入れやすいかなというふうに思いますので、その辺も踏まえて検討していただければと非常にありがたいなというふうに思いました。以上でございます。

アドバイザー：

学生たちの発表を私は事前に見てなくて指導してないので、おもしろいと思ったこととか若干違和感があるところとかがありまして、そのことも踏まえつつお話をしたいと思います。1人目は「誇り」を中心に論じていました。「シビックプライド」とか「地域アイデンティティ」といったことをピンピンと感じたということでした。「田舎は何もなくてつまらないよ」って多くの人が言うんですね。その裏で、「これは自分たちの一番だ」ってことを思ってるけどそれを言わないんですね。「誇り」を持っていながら、他方で「田舎はつまらない」と言う二重性っていうのは、日本のどこの地域でも共通してることなのかなと思います。学生を参加させてのフィールドワークというのを何度もやってきたんですが、やっぱり見せ方の問題なのかなと思うんですね。豊岡市のスタディーツアーは泊まりがけで、丹波市の時は日帰りなんですけれども、担当課の方に「ここはぜひ」というところをピックアップしてもらってバスで回っていくんですね。そうすると知らないから「この町ってすごいおもしろいものがあるってワクワクする」と参加した学生は目から鱗なんですよね。なのに、地元の人にはそれに気がついていない。ということは、観光ってことともつながってくると思うんですけども「見せ方」の問題になってくのかなと思います。6町が合併したところは「隣の町に何があるか」すらも知らないっていう状況が合併して十数年たっても未だに続いています。この問題は合併した町同士の認知度の違いなのか、それとも、ロジスティックというか、足の便が不便だから隣の町の文化資源とか文化施設に行けないだけの問題なのか、どちらかわからないんですけども、合併したのに共通の自分たちの文化っていうのが共通の誇りにならないっていうところは問題ではないかなということを感じています。それから、豊岡市でも問題になったんですけ

れども、確かに地方に行けば行くほど人口は少ないわけですし、予算は限られているわけですから、都市型の文化装置っていうのをまんべんなくスタンダードに用意することはできなくなります。そういったものをなるべく平均的に用意するほうに傾注するのか、それとも何か尖ったものを作るのかという問題ですね。これは北近畿広域で見た時に魅力のある施設があるのかという内容で学生が発表しました。豊岡市の場合は KIAC ができて起爆剤になり、大学ができるところまで信じられない速度でインプロビゼーションが進んだわけです。しかし、例えば京阪神と同じように文化装置が整うってことはこれからあり得ないわけです。つまり、京丹後でしかないオンリーワンの何か尖ったものを考えるのかどうか、ということですね。もう一つ、ここで議論した方がいいんじゃないかなというふうに思っています。スタディツアーだと、「多様で魅力に溢れた恵まれた地域だ」って学生がそう感想を持ったわけですけど、しかし、相互につながっていないことを考えると、やはり一番最初にご紹介した「文化的コモンズ」っていういろんな場所、いろんな人、いろんなシーン、縁がつながっていくっていう仕掛けを作るのが重要なんじゃないかなと思います。さまざまな情報を共有して相互にアドバイスをしたり紹介をし合うような、行政で言うと「ワンストップサービス」みたいなことですね。たらい回しにされないで「そういう困りごとならあそこに行けば解決しますよ」みたいなことです。「中間支援組織」って言葉があるんです。実際に活動している機関ではなくて、文化芸術活動の中間支援をするような機関というのが、やはり必要になってきます。それをどこが担ったらというのは大変難しい問題です。行政の中にそういった部署をおくというのも1つの案ですが、中核的な文化施設があった場合には文化振興財団がそれを担うということもあります。もう少し行政から距離を置いて、NPO が担うってこともありうると思います。豊岡だとそれに近いことをやっているのは「NPO プラッツ」というのが駅前であって、市民プラザの指定管理で運営もやっていますが、中間支援的な活動もやっています。本当は「アーツカウンシル」というのが一番いいと思うんですが、小さな地域だとそれは難しいです。もしかしたら府全体のアーツカウンシルとか北近畿のアーツカウンシルができると、今のようなネットワーク化によって文化的コモンズを積み上げていくっていう仕掛けが出てくるのかなというふうに思います。次に、文化施設のそれぞれの担当者の思いは強いんだけど、ベクトルとして同じ方向を向いているのかどうかということに対して疑問を持っている学生がいました。この会議は「審議会」なので進行管理とか評価をやる会議ですけども それとは別に「推進会議」みたいなものを作って、そこで文化施設の関係者が常に同じベクトルを向いてこの地域の文化振興の目指す姿を常に確認していくということも必要になってくのかなというふうに思いました。以上です。

アドバイザー：

方針という比較的抽象的なところから、強みと弱みを出しそれをさらに方針改めて考えていくという難しい作業だったと思います。方針を具体化しようとしたのはとても重要なことだったと思います。この方針があらゆる所につながってかぶさるところは多いと思うので、この方針が一体何にあたるものなのかっていうのをこれからもっとわかりやすい言葉でまとめられたらいいのではないかなと思いました。教育にあたる所なんかは、文化会館に当たるところなのか、市民活動に当たるところなのかということがわかっていけたらいいのかなと思いました。これからの段階でもっと京丹後の実情を掘り下げて、今どういうものを行っているのか、市はそれに対して何かやっているのか、課題はどこにあるのかっていうのを、市民アンケートからとか、文化団体、施設関係者がどういう課題を抱えているのかっていうのを改めて把握をして精査をして、そこから具体的にどうしていくのかっていうのを考えていく必要があると思いました。例えば4番の情報のところで、具体的にはどういった場面で問題が生じているのかっていうのを考えだ時に、文化会館がイベント・事業をやっても人が集まらないというところに課題があるのか、文化活動を個人的にしたいけれどもどこで活動したらいいかがわからないっていう課題があるのか。自分が団体に所属してこういう活動したいけれども、どこでどういう活動したいのかわからないとか、いろんなところで出てくる課題を精査した上で、どうして行くのかっていうのを考えていく必要があるかと思いました。そこでドイツのある市の芸術文化振興計画をざっと見まして、外国人の私にでも何が言いたいのか分かりやすかったので少しご紹介します。「芸術」「文化遺産」「教育」というように項目がわかれている、それに対してそれぞれ方針が書かれていました。例えば、「芸術」だと、その中で「音楽」「パフォーミングアーツ」「劇場」とさらに項目に分かれているんですけども、それぞれがどういう現状があるのかを、まずまとめています。現状は「今こういう活動があります」「市はこういうことを行っています」「こういう課題があります」という整理。その次に2030年の目標が書かれていました。「どうあるべきなのか」というところです。それに対して具体的施策事項が述べられているとい

う形で、「何に対して、どういう現状・課題があって、じゃあこうする」と書いてあるのはすごく分かりやすかったので、あまり抽象的になりすぎず、より具体化していけたらもっといいかなと思いました。あともう一つあります。A班で「みんなが共有できるキーワードがあればいい」という話がありました。私もとても共感しました。以前に私が「対内的視点と対外的視点に分けて考えたらいんじゃないか」というお話をしましたが、このことは対外的な視点から考えた時にも重要なことになってくるのかなと思います。豊岡市は「演劇のまち」から市長が変わって「演劇もあるまち」になりました。確かに演劇だけ力を入れて音楽など他の事には力を入れないというふうになると不公平だと言われます。対内的にはどれも公平な扱いをしたほうが満足度は高いのかもしれないですけども、なんでも平等にやっていくのはおそらく難しく、「どういう市なのか」ということもなんだかよくわかんないところとどまってしまう。一方でその対外的視野で考えた時に「選択と集中」でこのまちは何をやっているのかということが、選んでそれを集中的に打ち出していくっていうので何かそういう「なんでもかんでも」ではなくてみんなが共有できる1つのキーワードがあったら、対外的視点からしても、とてもシティブロモーションとしていいんじゃないかなと思いました。以上です。

委員：

集まっている我々全員が地域文化政策の専門家ではないので、「コモンズ」とか「シビックプライド」とか、全員で共有してない専門用語が出てくると話し合いが難しいと思うので、事務局に用語集みたいなものをまとめてもらうと話をするのが楽かなというふうに思います。作ってもらうことできるんですかね。2つめ、「バリューチェーン」という話もあったので資料5のキーワードをまとめてもらうときに、これがどういうバリューを生み出すのか、バリューチェーンの中のどこに位置づけられるのかも示していただくとありがたい。そのままバリューチェーンの中にそのまま入ってわけじゃないんだとは思いますが。にぎわいを創ることによって誰がどういう価値を享受できるのかとか、気軽に文化芸術に親しむことがどういう価値につながるのかっていうところを示していただくと話がしやすくなるかなと思います。3つめ、審議会は全体として（答申までに）あと4回あるんですよ。ロードマップと言うか、3回目はここまで来たけど5回目までにはここまで決めたいとか、6回目までにはキーワードが提示したいとかっていうようなロードマップ的なものが何か簡単でいいので示していただくと、予習できるかなと思いますので、たくさん言いますがお願いします。

事務局

そうしましたら、終わりに移っていきたいと思います。いただいた意見やアドバイスを事務局でまとめさせていただいて、事前に皆さんにお送りし、次回ご参加いただくということで進めたいと思います。あと、この6つの方針がよりわかりやすく修正案ができそうでしたらもう少し分かりやすくといったあたりも可能なら見直したいと思います。次回の審議会日程ですが、3月17日（木）午後、皆さんご都合いかがでしょうか。今の時点で難しい方がいらっしゃらないようですね。それでは、3月17日（木）午後1時半からということでご予約いただければありがたいと思います。

会長：

都市拠点の検討会議がこの審議会と同時進行をしています。6~7年後になるでしょうか、高速道路が峰山町新町のしんざん小学校の近くに降りてきます。その辺りの都市計画について、子育てしやすい機能とか老朽化している図書館の機能とか、そういったことも踏まえて検討が進んでいます。この審議会の意向とか思いをその検討に落とし込むというような話になっていまして、今はソフトの話をしているんですが徐々にハードの部分についても進みつつあります。審議会の皆さんそれぞれの分野での熱い思いや、議論の進み具合を、その都市拠点検討の会議でもきちんとお伝えしたいと思います。「こうあってほしい」ということも伝えたいので、事務局も連絡を取っていただいたりまとめていただいたりして次の会議に持っていけたらと思っています。文化芸術がいかに大事かということも都市拠点の会議の中にもきちんと伝えさせていただける場面があります。そういったことも念頭に置いて思いの丈を今後もお話ししていただきたいと思いますので、ご報告が遅くなりましたけれどもよろしくお願いたします。

副会長：

今日は方針のたたき台について、皆さんのご意見をいろいろいただきました。私もB班として、施設について話すことも必要ではないかと問題提起のような形でお話させていただきました。田中アドバイ

ザーからもありましたけれども、文化芸術のどのようなすがたを私たちが目指し、それにあうために、例えば文化会館がどうあるべきだということを議論をする場合に、この計画は10年の長期計画ですので「誰か別の人にやってください」というのはどうかなという思いがあります。会長が先ほどおっしゃいましたように、図書館とかも含めた都市拠点の文化施設のあり方のようなことも一方で議論が少しずつ進んでいるということもあるので、できれば皆さんとの意見交換の場面も必要なんじゃないかなという、そんな思いもあって問題提起のような形でお話しさせていただきました。「自分たちが出している意見が実際どんなふうにつながるんだろう」とか「ここで言ってもいいっばかしで終わってしまうんじゃないか」とかいうことを、もしかしたら思われる方があるかもしれませんが、決してそうじゃなくて、ここを出していただいたことを具体的なその文章として計画に載せてしていくというその作業を今皆さんにお世話になっているということぜひご理解いただいて、ここを出していただいたご意見全部が実現するかは難しいと思いますが、こういった議論を重ねる中で今後10年間でソフトもですけども課題になっている、例えば、施設の整備のような問題課題も炙り出していきながら大きな方針をこの計画の中に盛り込めることができれば、今後の文化芸術のひとつあり方として大きな役割を果たすことなるんじゃないかなと思っています。「ここで話したことがどうなるんだろう」という思いももちろんよく分かるんですけども、大変重要なお話をさせていただいているということを改めて皆さんにご理解いただきまして、これからたたき台ができたあとはもう少しまだ細かい言葉が出てきたりとか推進体制についてだとか、今後はいよいよ本丸に入ってきますので、ぜひこれからもお力と知恵をですね借りながら進めていきたいと思っていますこれから引き続きどうぞ あの後 条件をいただきまして我々をサポートしていただけたらと思っています。今日もお世話になりました。ありがとうございました。

事務局：

それでは以上で閉会とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。